

よちよち歩き

早くも2月である。

東京には4年ぶりに大雪が降り、1週間経ってもいまだ雪は至る所に残っている。

4年前のその日には、引越しをしていた。

その頃は、セルドロン事業は今よりもっと駆け出しで、わが娘も1歳直前の歩きはじめて、「そう言えば重なるな」と今さらながらに思ったりしている。

新しい年になっても、企業トップがテレビカメラに向かってつむじを見せながら頭を下げている。

ハレノヒの社長を擁護するつもりは毛頭ないので誤解なきように。

マスメディアは「何処に隠れていた」「個々への謝罪はどうする」

「返金はいつからどうやって」と、誰もが分かり易い言葉でワイドショー的に報道している。

祝い事を悲しい思いに出してしまった社会的責任は大きく、許される余地はない。また、確信犯だった公算も高い。

従い、法律的な罰則はもとより、人道的な部分も負っていくべきであらう。

一方、彼の釈明会見によると、金融（4行）借入や納品業者への未払が合計で6億円近くあるとのこと。このうち、金融借入はどのくらいあるのだろうか。「資本金150万円、業績不振、債務超過」で融資している銀行の審査基準や信用保証協会の有無はどうなっているのか？

是非、そういう部分にもスポットを当てた報道を聞いてみたい。

マイナス金利政策ながら、貸出先が無いのが今の金融機関。

商売をして利益を得ようとする納品業者とは性質が大きく異なり、お金が商品の金融機関が、被害者の立場に徹しようとしないうことを望む。

そしてコインチェック。

Eye & EarキャチャーなCMを流していたが、要すれば580億円分もハッキングされたということ。

「何処に行ったかは分かっている」と代表から強気な発言あったが、「そんな技術があるならプロテクトしとけよ」と思ってしまう。

他方、仮想通貨ZINの本部が「犯人は是非、換金しないで欲しい」との声明を出しているようだが盗んだ人に「盗んだものは現金化しないで、ちゃんと返して」って頼んでいる分けで、ある意味微笑ましい。

そして、もし犯人達が「分かった換金しない」としたら、どうなるのだろうか？そして、「身代金だせ」とか、「それも他の仮想通貨で」とかなったら、もう分け分からなくなってしまう。

代表の方はまだ27歳と聞いた。単純に「よくそこまで行けたな」「頭いいんだろうな」「芯が強いんだろうな」と感心している。

ビジネスにはリスクは付き物。

失敗を恐れていては、そもそもビジネスはスタート出来ない。完璧な人などいない。間違えもする失敗もする。成功は何も教えてくれないけれど、失敗は多くのモノを教えてくれる。

セルドロン事業は勿論まだ成功には程遠く、ここまでに来るのにも幾つもの失敗と、ほんの少しの成功を得て、そして何より多くの方々に支えられて、何とかここまで辿りついている。

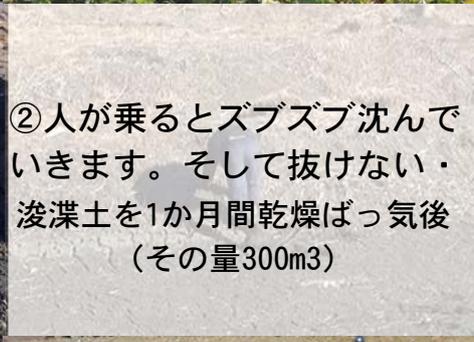
あの時、ヨチヨチ歩きだった娘が4月からは小学校に入る。彼女はこれからどれくらいの失敗を重ねていくのだろうか。いまだあちこちに残った雪を見ながら、そんなことを考えたりしている。

伊豆の国市に運んだ25トンのセルドロンが2日間で使用されました。

先日より紙面でお伝えしておりました、ため池の浚渫土の処理案件ですが、一月二十四日に作業がおこなわれました。どこの地域でも、浚渫工事は一般的に行われております。予算の関係もあり毎年少しずつ処理しております。また、池の中なので、泥がどの程度溜まっているか分かりにくく、問題視され難いです。今回のため池の浚渫土も、想定していた土量の1.5倍以上発生しました。これは文字で書くと大した事ないようですが、様々な問題が発生します。1.5倍の浚渫土は、事前配合試験して納品した25tのセルドロンでは足りなく、工程を変更しました。少しでも自然脱水してもらい、ミキシングバケットを付けたバックホーで混合攪拌して、無事にダンプトラックで運んで処分出来ました。



①浚渫をしたため池



②人が乗るとズブズブ沈んでいきます。そして抜けない・浚渫土を1か月間乾燥ばっ気後（その量300m³）



③スランプ[°]5cm



④セルドロン攪拌



⑤スランプ[°]0cm



⑥運び出し完了